

彫刻研究室活動紹介 彫刻制作からアートプロジェクトへ

<彫刻制作>

主に粘土や石などを中心に、鉄、木材なども使用した彫刻制作。プリミティブな素材との格闘の実践。自然素材のあたたかさや重さとともに、厳しさを学ぶ。ひたすらに粘土を付け、モデリングすることから、人は簡単に言葉にはできないような、きつと普遍的に大切なものをつかむ。気の遠くなるような、時空を経て、今向き合う石塊。簡単に形にならない。そこには、こつこつとした地道な制作でしか触れられないものがある。



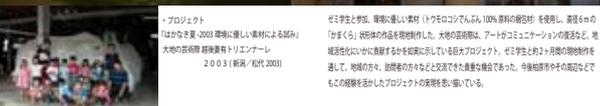
モニュメント石彫作品「絆」(2009年)
JR 柏原駅ロータリーモニュメント
この地を緩やかに流れる大和川の風景と、悠久の歴史・人々のいとなみに思いを馳せ、未来への思いを銘石「庵治石」に託し制作した。



「あこがれ」600×300cm 皿、粘土、石膏 2006
約 300 枚の平皿の上に小さなオブジェを配置した。



「三日月」H150cm 陶彫 2003



プロジェクト
はかみきり 2003 環境に優しい素材による彫刻
大地の芸術祭 越前・富山トリエンナーレ
2003 (新潟/富山 2003)

大学生と学生、環境に優しい素材(トウモロコシで出来た 100% 原料の発泡剤)を硬質し、直径 6m の「はかみきり」球体の作品を製作した。大地の芸術祭は、アートコミュニケーションの場として、地域活性化に役立っている。また、彫刻制作を通じて、地域の活性化に役立っている。また、彫刻制作を通じて、地域の活性化に役立っている。



<彫刻制作からアートプロジェクトなどへ>

地道な制作をベースに、様々な機会に外に飛び出したい。子どもたちの活動、環境を少し意識した活動、ゼミ学生と一緒の現地制作、公開講座、真夏の「中学生サマーセミナー」、海外作家との現地制作など、彫刻研究室は、ベーシックなまなざしを大切に、いつも外に向かって発信します。アートの持つ包容力、コミュニケーションの世代を超えた可能性、まだまだそこに眠っている力は無限大と信じています。ぜひ皆さんとどこかで一緒に活動できると嬉しいです。小さな点から始まる宇宙、無限大の可能性をいつも夢見たいと思っています。



Elektrisierte Wäschespinnen auf Ton (エレクトリックドラゴン)
2007. 8. 4-9. 15、ドイツ・ヘッセン州のナショナルパーク・ケラーヴァルト・エダーゼーで開催した野外インスタレーション(野外展示)。現地作家との共同制作プロジェクトの機会を得、現地のギムナジウム(高校)の生徒とのコラボレーションなども実施し貴重な経験となった。様々なサポート(ボランティア、スポンサー、メディア)などとの連携から、アートの活動の多様な可能性を言語の壁を越えて体験した。

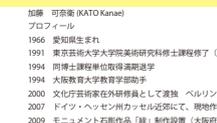
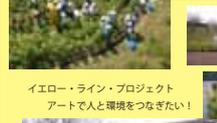
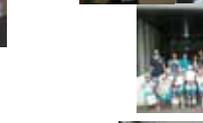
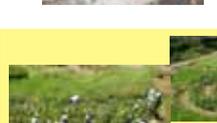


2009 柏原キャンパスでのコラボレーション



おおさかカンファス推進事業 2011 服部緑地公園(コラボレーション)

神戸ビエンナーレ 2011 ボーアイしおさい公園



加藤 可奈衛 (KATO Kanae)

プロフィール

1966 愛知県生まれ

1991 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了(彫刻専攻)

1994 同修士課程修了(京成学院大学)

1994 大阪教育大学教育学部助手

2000 文化庁芸術家在外研修員として渡独 ベルリン芸術大学在学(～01)、同大学を中心に活動した。ボンダム、チュルゴ(ハンガリー)にて現地制作

2007 ドイツ・ヘッセン州カッセル市に於いて、現地作家(Gehard Hesse氏)とのコラボレーション野外展示

2009 モニュメント石彫作品「絆」制作設置(大阪府柏原市 JR 柏原駅ロータリー)

Art Joint + 2009 「エレクトリック・ドラゴン」野外展示(プロデュース、共同制作) 大阪教育大学 柏原キャンパス

2011 神戸ビエンナーレ 2011 (神戸・おおさか公園) 大阪カンファス推進事業(服部緑地公園)などに参加

その他、他県・グループ展等の開催・出版、プロジェクト「イエローライン・プロジェクト」、ワークショップ、公開講座「彫刻制作に挑戦!」、地域開放事業「わくわくアートの時間」の実施、

ライオン・デザイン・プロジェクト、展覧会企画、他領域との連携(エコ活動等)等

アートが持つ可能性と包容力を活かしていきたい。アートの活動を通じ様々な人、ことがつながっていることを期待している。

柏原キャンパス/野外彫刻マップ(2008 作成)